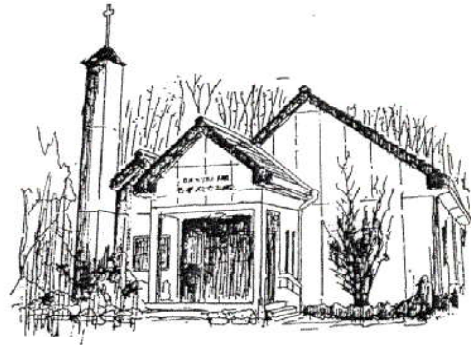


あがつま



年間聖句

「まことの礼拝をする者たちが、
霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。
今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する者を求めておられるからだ。」
(ヨハネによる福音書4章23節)

賛美歌を歌おう②
『主の復活ハレルヤ』
讃美歌21…333番
イスターの礼拝で歌う賛美歌を選ぶとき、私の頭に真っ先に思い浮かぶのがこの歌です。イスターの喜びを見事に歌い上げるこの賛美歌には、アフリカ・タンザニアの結婚式で歌われる民謡のメロディ（ルーツは西欧の旋律だと思われる）が用いられています。
東アフリカに位置するタンザニアは、5世紀にポルトガルに制圧されて以来、一九六〇年代に独立を果たすまで、列強の植民地支配を受けていました。植民地時代には、民族音楽を礼拝に取り入れることは困難でしたが、独立と共に起こった歌唱運動のなかで生み出されたのがこの歌です。

この賛美歌を作詞したベルンハルト・キヤマニアはタンザニア・ルター派の牧師で、聖書を自国語（スワヒリ語）に翻訳する事業に参加し、自国語（スワヒリ語）と自国の旋律による賛美歌の創作にも尽力しています。
この賛美歌はドイツ語に翻訳されて世界中に知られるようになり、讃美歌21にも取り入れられました。ドイツ語からの重訳ですが、復活の出来事を、弾むようなリズムに乗せて、イスターの喜びをまっすぐに表現しています。この歌が、イスターの礼拝で歌われたなら、どのような説教にも優るメッセージを会衆のところに響かせることでしょう。
稲垣真実)